

平成23年度 学校評価報告書

様式1-1

大牟田市立米生中学校 No.1

学校教育目標		心豊かで健やかな身体を持ち、主体的に学び、真実に生きる生徒の育成		重点目標	学力保障、進路保障(キャリア教育)、異年齢集団との交流を通じた人間関係、の育成			
評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画 (次年度に於ける改善策)
重点目標	目標達成のための方策 (取組指標)	生徒の姿による達成度 (成果指標)		評価	結果(成果と課題)	評価	コメント	
重点目標 に 関 する 評 価	確かな 学力保障 (授業改善)	教科の重点と達成の手だての明確化	教科経営案で、確かな学力に関しての目指す生徒像やそれに対応する手だてが明確となっているかの達成率で判断する。		2.9	○各教科の改善案が明確なのでその効果的な実践が課題である ○指導と評価の一体化に関して、まだまだ、不十分どころが認められる。 ○昨年度から継続して補習居残り学習等で低学力生徒に対して学力補充を各教科でよく取り組まれている。 ○研修の機会はあるが、なかなか自習や授業振り替え等を考えると遠方で研修参加は困難。 ○校内授業研究会の更なる充実が望まれる。 ○師弟同行の清掃活動など日常活動は良くなされているが、地域連携活動とすると、一部の職員に負担をかける傾向にある。	B A A B B B A B	○確かな学力保障では補習居残り学習等でレベルアップしてあることは大変良いことであると思います。ただ受ける側の努力不足があるのではと思います ○授業参観等で生徒が熱心に授業に取り組んでいる様子がよくわかる。 ○学力の向上が大きな課題としてありますが、その現実に対して適切な自己評価がなされていると思います。 ○1Pノートなど家庭学習の取り組みはいいと思う。 ○基礎学力の定着に向けて小学校でも家庭学習の充実が重要です。共通課題と個別課題など学年や個に応じた対策が必要です。この点は中学校とも連携しながら進めていければなりません。 ○小学校の校内研や中学校の先生方も参加して頂く機会があれば企画したいものです。 ○宿題プリントや1Pノートの工夫は認める。家庭での問題でもあるが、予習復習を含めた自らすすんで家庭学習を行うようになるような工夫を考えてもらいたい。 ○通常授業以外の研究会や研修が増えている感じがする。そのような中、地域連携活動だけでなく課外クラブやボランティア活動など行っていますが、これらについては、生徒も理解していると思います。
		工夫されたわかりやすい授業の実施	工夫のある授業を行い教科の目指す生徒像が達成されたかの達成率で判断する。指導計画の実施状況の確実な展開と確認による達成率で判断する。		2.9			
		学習体制の整備	家庭学習(宿題プリントの工夫)を含めた学習体制の整備と確立を図り1Pノートの指導、各教科毎の宿題の出し方に工夫、各教科の特性を活かした各種コンクールの実施(漢字、計算、英単語、数検、英検、英会話など)ができたかの達成率で判断する。		3.1			
		学習指導組織の工夫	少人数・TT授業・課題別など柔軟な学習集団を編成し授業できたか達成率で判断。		2.8			
		指導と評価の一体化を図る	場や時に応じた適切な評価の工夫を行い評価結果を指導に生かしているかで判断。		2.6			
		校内授業研究会の充実による指導力の向上	主題に基づく全体授業研究会や年間を通した全員公開授業期間を設定し、全員授業公開した後の授業整理会で参観者による適切な指導助言の達成率で判断する。		2.7			
		職員研修の奨励による授業力の向上	専門研修や先進校授業公開等、個人の要望に合致した研修会に派遣するとともに、必要に応じて復命機会を設け校内研で成果の共有を図れたかの達成率で判断する。		2.8			
		教師の率先垂範による生徒との日常活動の充実	「各行事に於ける準備」「朝の挨拶運動」「日常の清掃活動」「放課後の補充学習」「地域ボランティア清掃活動」等での協同作業達成率で判断する。		3.1			
	進路保障	諸活動を通じた豊かな心の育成	生徒会活動の自主運営、地域行事への意欲的な参加を通じた達成率で判断する。		2.9			
		教育相談を通じた不登校の解消	教育相談の計画的な実施、ケース会議の開催、SC・関係機関・養護教諭を含めた連携及び悩みへの解消に向けた教育相談の充実と不登校生徒の減少率で判断する。		2.9			
ガイダンス機能を重視した進路指導の展開		キャリア教育を推進し、適切な職業観・勤労観の育成がなされたかの達成率で判断。		2.8				
学力等の実態【評価】	前年度の米生中学校標準学力の平均値よりアップしたかの達成率で判断する。保護者の授業への満足度を向上させることができたかの達成率で判断する。		2.6					
良好な 人間関係 づくり	異年齢集団 活動を通した 人間関係 づくりの推進	挨拶、言葉遣い、容儀の徹底による人間関係作り	年間通した生徒による朝の「あいさつ運動」展開や校内各種行事での容儀、言葉遣い等での達成率で判断。		2.8			
		防犯や非行防止学習を通じた規範意識の醸成による人間関係作り	[非行万引き防止][いじめ防止][薬物乱用防止][不審者対応]等の授業を体験活動、道徳、学級活動の関連授業として実施し、実際の生徒の変容達成率で判断する。		2.9			
		道徳の重点価値項目との関連を図り、人権・同和教育・福祉教育等と関連した人間力の向上を図る	「思いやり的心」「支え合う心」「差別をしない心」について重点配分した道徳の授業を実施すると共に「独居老人宅訪問」「介護施設訪問」「老人擬似体験」「手話」など人権同和福祉教育と絡めた体験型心の開拓に努め社会性人間力、自尊心達成率で判断する。		2.9			
		異年齢による縦割り集団活動での人間関係づくり	各行事に於いて、学年を超えた縦割り集団で取組む機会を多く設定し、人間関係づくりの達成率で判断する。		2.8			
		異年齢集団による体育的活動に於ける体力増強と人間関係づくり	体育的行事等を通して体力・精神力・忍耐力などの向上と充実にも努めながら、更に異年齢集団による体育的活動によって、人間関係づくりが推進されたかどうかで判断。		3.1			
		ピアサポート活動の展開	学校全体や学年行事等の活動を通して支持的風土を醸成する達成率で判断する。		2.7			
	社会性の 実態【評価】	幼稚園や小・中・特支学校や地域との交流による人間関係づくり	幼・小・中・特支学校間での授業交流や地域行事への生徒の積極的参加達成率で判断		3.3			
			生徒の自己評価におけるポイントを上させたかの達成率で判断する。教師の評価におけるポイントを上させたかの達成率で判断する。保護者の評価におけるポイントを上させたかの達成率で判断する。		2.9			

自己評価 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70%~90%) 2:もう少し(60%~70%) 1:できていない(60%未満)
 学校関係者評価 A:自己評価は適切である B:自己評価はほぼ適切である C:自己評価はあまり適切でない D:自己評価は不適切である

平成23年度 学校評価報告書

様式1-2

大牟田市立米生中学校 No.2

領域	評価計画			自己評価		学校関係者評価		改善計画
	評価の観点	評価指標 (成果指標または取組指標)	評価	結果(成果と課題)	評価	コメント		
学校教育目標・学校評価	中長期目標・重点目標	生徒の実態、保護者や地域の願いなどをもとにした中・長期目標をもとに、教育課題・経営課題について単年度目標(重点目標)を適切に設定している	2.9	○日常不断の意識の強弱が成果に影響している。	B	○適切な評価がなされていると思います。	○学校関係者評価による学期毎の行事における学校訪問機会をできるだけ多く設定し、前期と後期の2回実施する学校関係者評価を実施し、適切なものに改め、学校改善の明確な指標を得て具体的な改善に活かすように今後も継続していく。	
	学校評価とPDCAサイクル	自己評価を前期と後期の2回、学校関係者評価を年間2回実施し、それをもとに改善している	3	○学校関係者の行事や授業参観は予定通り実施できた。	B	○適切な評価がなされていると思います。		
教育課程・学習指導	教育課程の適切な編成・実施評価	学校教育目標(中期目標)の達成のための教育課程編成方針や重点が明確であり、教科・道徳、特別活動、総合的な学習の時間が有機的に関連し、時数の配当等が最適化されている	2.9	○学校教育目標の具現化に向けた取り組みで、職員間において意欲や意識に温度差があり一枚岩になっていない。やはり、主義・主張を超えたところの教師としての良心に基づく熱意・やる気・協働意識が大切であり、教師としての人間性向上が生徒の教育力向上に繋がっていくものと思う。	B	○中学校在籍の学力の二極化など個人差の拡大は誰が痛いとします。小中学校でも基礎学力を少しでも底上げできるようにしたいと考えています。	○各教科の目指す生徒像達成に向けての具体的で効果的な指導工夫や手立てについて、校内研究と絡めて推進していく。	
		教科経営案で確かな学力に関しての目指す生徒像やそれに対応する手立てが明確となっている	3.1		B		○各教科に於ける目指す生徒像の明確化とそれに基づく年間カリキュラムの見直しを定期的に進捗させる。	
		確かな学力保障として、わかりやすい工夫のある授業を行い、教科の目指す生徒像を達成している	3		B		○校内研究と授業改善を連動させ、効果的な手立てを工夫する。	
		適切な評価の工夫を行い、各教科担任の評価と指導の一体化を図っている	2.8		B		○独り担当教科については、できるだけ担当者複数の他教科とグループを構成し、教科枠を超えた学力向上について御意見を伺う。	
		すべての教科領域等で基準時数以上を確保している	3.3		A		○指導と評価の一体化を更に徹底していく。	
指導組織や耐性の充実	基準時数以上で配当された教科で少人数、課題別など柔軟な学習集団を編成し授業を実施している	3.1		A		○家庭学習の習慣化に向けた長期的な取組を実施する。		
組織運営	校務分掌の明確化	校務を的確に分担(組織編成)している	2.5	○校務分掌に関して、一部の職員に軽重の偏りが見られる。	B	○適切な評価がなされていると思います。	○小規模校であるため、不登校や問題行動については担任や補導主任任せにするのではなく、副担任の積極的なサポートを含めて、全校体制で組織的に行う。	
	協働体制づくり	主幹・主任・主事がリーダー性を発揮するとともに、各種委員会(運営委員会、生徒指導委員会、研究推進委員会、教育相談会、木曜懇話会など)、分掌部会、学年部会等の効果的な運営を図っている	2.8	○同じ人間が多くの仕事をしている傾向がある。	B			
生徒指導	教育的な生徒指導	基本的方針等を教職員が共通理解し生徒指導(問題行動対応・積極的な生徒指導)を実施している	2.8		B	○生徒指導、学習指導、進路指導、クラブ指導など本当に多忙な日々だと思います。多感な時期の心の問題への対応は一朝一夕にはいきませんが、地道に進めていきたいと思います。	○全校で支持的風土の醸成を推進し、自己存在感のある自尊心を育む心を中心とする人間関係になれる生徒指導を展開する。	
		全員対象や個別のチャンス相談などの教育相談を実施し、悩みや不安の解消に当たっている	2.8	○学校全体での共通実践ができていて、生徒は落ち着いた生活をしている。	B		○不登校生徒については初期対応での未然防止を徹底し、背景を考慮しながら、その後も継続した対応と誠意ある取り組みをしていく。	
		スクールカウンセラーや関係機関等との連携を図りながら、指導を実施している	3.1	○他校との情報共有に基づく、行動連携が問題行動の抑止に繋がっており、少なからず効果的であった。	A		○報告、連絡、相談を密にし、日常的な情報共有を促進して、学年せがに陥らない全校体制による組織的で、きめ細かな対応と関係機関との連携を強め、特に「いじめ」については早期発見、早期対応、早期改善に努める。	
		問題行動や不登校	問題行動発生時の迅速な対応と継続した事後指導及び不登校生徒に対する継続した取組みの徹底	2.8		B		
進路指導	教育的な進路指導	キャリア教育の一環として、職業観・勤労観を育む全体計画、年間指導計画を立案し、計画的な実践(学校活動・総合)が行われている	3	○第1学年から第3学年までの系統的なキャリア教育についての見直しと手直しが今年度は必要である。	B	○不登校生徒に対する進路保障については米生中だけの課題ではないと思います。	○3学年を見通したキャリア教育の更なる充実と深化を図り、系統的で発展的な教育課程の編成に努める。特に、3年生を見通した資料を、進路主事や特活担当者を中心に整備していく。	
		指導方法の工夫改善	密着的な体験活動(職場体験・福祉体験・高校一日体験など)と関連させ、効果的に実施している	3.2		B	○適切な評価がなされていると思います。	
		進路保障	卒業時の進路が保障されている(希望者の進学率や就職率100%など)	3.3		B		
特別支援教育	特別支援教育	校内体制の明確化	特別支援教育担当者を中心に、関係の教師が協働して実態の把握、指導計画の作成にあたっている	2.8	○特別支援教育担当者会の更なる研鑽と進学・進路保障の充実を努める。	B	○隣接する大牟田特別支援学校との交流教育の更なる充実を図り、支援を要する生徒の個別目標に対する確かな指導方法の工夫改善を今後も継続して努める。	
		指導方法の工夫改善	教科や生活等における対象生徒の個別目標を的確に設定し、指導方法の工夫改善を行っている	2.9		B		
保健管理	保健管理	生徒の健康管理能力の育成	健康観察や保健便り、健康診断の連絡等を通して、健康に対する自己管理能力を高めている	3.1	○適時性のある健康管理便りが効果的であった。	A	○適切な評価がなされていると思います。左記結果と同感。	○生徒会専門部会の活動と連動した保健指導を展開させる。
		安全管理	校内安全点検、危険箇所点検	校内の安全点検を毎月1回行うとともに、校区内の危険箇所点検を学期に1回行っている	2.8	○緊急対応に対する訓練は比較的よくなされているが、臨機応変な柔軟な行動にも配慮したい。	B	○適切な評価がなされていると思います。
安全管理	安全管理	危機対応能力の育成	避難訓練、心肺蘇生・AED講習、不審者訓練等、安全意識を高揚させ自己対応能力を高めている	2.8		B	○定期的な危険箇所点検の実施の防止を徹底する。	○定期的な防災訓練を通し臨機応変な危機対応能力向上に努める。
		研修	授業研究	主題に基づいた全体授業研究会を年2回、及び全員公開授業の期間を設定し全員授業公開する	2.9	○現時点で、まだ数人ほど、公開授業の実施があるが、もう少し早い段階での公開授業の計画が望ましいと思われる。	B	○授業公開について、教師側と生徒側のそれぞれの実態と現状課題を明確にするともに、改善に向けた原因分析を十分行い、具体的な共通実践を通して、学力向上に努める。
研修	研修	一般研修	生徒指導や服務や教育法令等に関する研修会、学校の実態に応じたテーマの研修会を計画的・適切に実施している	2.7	○授業研究会が生徒の学力向上に直結するような効果的な成果が上がるように、もっと工夫改善していくかなければならないと思います。	B	○効果的な家庭学習の習慣化・定着化に向けて、校内研究と絡めて様々な試行を重ねながら模索する。	
		個人研修	専門研修や先進校授業公開等、個人の要望に合致した研修会に派遣するとともに、必要に応じて復命の機会を設け、校内研で成果の共有を図る	2.7		B	○個人研修の奨励を推進するとともに、個人研修が可能なサポート体制の確立と整備に努める。	
情報提供	情報の提供	各種たより(学校、学年、学級、保健、図書)や学校HP等を通して、学校の情報を適切に提供している	3	○本年度から松山主幹教諭によるMボード更新が定期的になされるようになり、学校情報が保護者・地域に伝わる機会が更に多くなり、地域との情報交流がスムーズにいくようになった。	A	○Mボードにより中学校の様子が見やすくなっている。	○市内共通の「電子Mボード」に学校便りを載せ、学校情報を開示しながら定期的に記事内容を更新し、正確で適切な情報伝達に努める。	
保護者・地域住民との連携	学校開放・地域行事への参加	授業参観、学校行事などを通して、学校を開放している(保護者や地域の参加を高める)かっぱ祭り、駿馬地区公民館翔馬祭、そらめん流しなど校区内各種催しもの積極的に参加している	2.9	○地域の行事、教育力向上、徘徊模範訓練、ユネスコスクールなど、本校職員による献身的な協力によって、目標が達成されている。	A	○独自のメールシステムを活用している。	○校区内の他団体開催の各種行事には積極的に参加させ、奨励していく。	
		地域人材の活用	職場体験や福祉体験など地域人材(A.B.Cボランティア)を活用した研修を推進している	3.2	○地域連携の期日によっては、なかなか協力態勢が困難な場合もあり、参加協力態勢について、一部の職員にしわ寄せがないようなシステムの工夫が必要である。	A	○校区内在住の地域人材(A.B.Cボランティア)の協力を得て、将来、地域活動を持っていくであろう本校生徒の地域人材に努めていく。	
教育環境整備	環境美化	樹木伐採・除草作業、花壇整備、清掃活動などの指導を適切に行い、校内環境美化に努めている	3.3		B	○適切な評価がなされていると思います。	○施設設備の計画的で具体的な修繕改善計画を立て、破損箇所の修理や補修を迅速に行う。	
		生徒作品類の展示や校内掲示物の適切な管理をしている	3.1		B	○校内除草が定期的に行われたので、見違えるほど雑草が減少し、学校美化環境が整頓された。	○校内環境美化については、従来通り師弟同行で共通実践に努める。	
		破損や補修箇所を早期に見出し、可能な限り早期に改善している	2.9		B		○校内美化については、各生徒会専門部会活動と連動しながら年間計画に従って、定期的に行なっていく。	
環境整備	備品の整理・整頓と計画的な購入を実施している	2.9	○視聴覚機器整備として、大型TVが整備され情報教育への効果が発揮できるようになった。	B	○備品の整備はまだまだ費用負担はどこがすべきか(市教委、学校、募金など)購入方法について検討する必要がある。	○校区内在住の地域人材(A.B.Cボランティア)の協力を得て、花壇の植え替えや花壇の整備に努める。		

自己評価 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達せ(70%~90%) 2:もう少し(60%~70%) 1:できていない(60%未満)
 学校関係 A:自己評価は適切である B:自己評価はほぼ適切である C:自己評価はあまり適切でない D:自己評価は不適切である

